

経済・金融 フラッシュ

11 月日銀決定会合： 現状維持、景気判断を下方修正

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 現状維持、景気判断を下方修正

日銀は 15-16 日に金融政策決定会合を開き政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を 0-0.1%程度に据え置き(全員一致)、総額 55 兆円の基金による各種金融資産買い入れにも変更はなかった。

金融政策の現状維持は予想通り。前回会合で買い入れ基金の増額(50⇒55 兆円)を決めており2回連続での増額との見方は少なかった。

ただ、次回以降の決定会合で追加緩和が行なわれてもまったく不思議ではない。金融市場、特に今までのように為替が大きく動き出せば日銀も基金増額で対応することになるだろう。

今回決定会合では、景気の実況判断について東日本大震災後の 4 月以来となる下方修正を行なっている。10 月 27 日の前回決定会合では、景気の実況判断について「供給面の制約が解消されてきている中で、持ち直しの動きが続いている」としていたが、今回は「持ち直しの動きが続いているものの、海外経済の減速の影響などから、そのペースは緩やかになっている」との判断を示している。足元海外経済の鈍化で輸出や生産の増加ペースが鈍ってきている。

先行きについても、「当面、海外経済の減速や円高に加えて、タイの洪水の影響を受けると見られる」と先月から被害拡大が明らかになっているタイの洪水が加わってきている。

またリスク要因では「欧州ソブリン問題は、欧州経済のみならず国際金融資本市場への影響などを通じて、世界経済の下振れをもたらす可能性がある」と日銀の警戒感の高さが伺われる。

日銀 景気判断・見直し

	現状
2011年11月	持ち直しの動きが続いているものの、海外経済の減速の影響などから、そのペースは緩やかになっている
2011/10/27(展望)	供給面の制約が解消されてきている中で、持ち直しの動きが続いている。
2011年10月	持ち直しの動きが続いている
2011年9月	震災による供給面の制約がほぼ解消する中で、着実に持ち直してきている
2011年8月	震災による供給面の制約が和らぐ中で、着実に持ち直してきている
2011年7月	震災による供給面の制約が和らぐ中で、持ち直している
2011年6月	震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力が続いているが、持ち直しの動きもみられている
2011年5月	(据え置き)
2010年4月	震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある
2010年3月	改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある
2010年2月	改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある
2011年1月	(据え置き)
2010年12月	(据え置き)
2010年11月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きに一服感がみられる
2010年10月(展望)	(据え置き)
2010年10月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きが弱まっている
2010年9月	(据え置き)

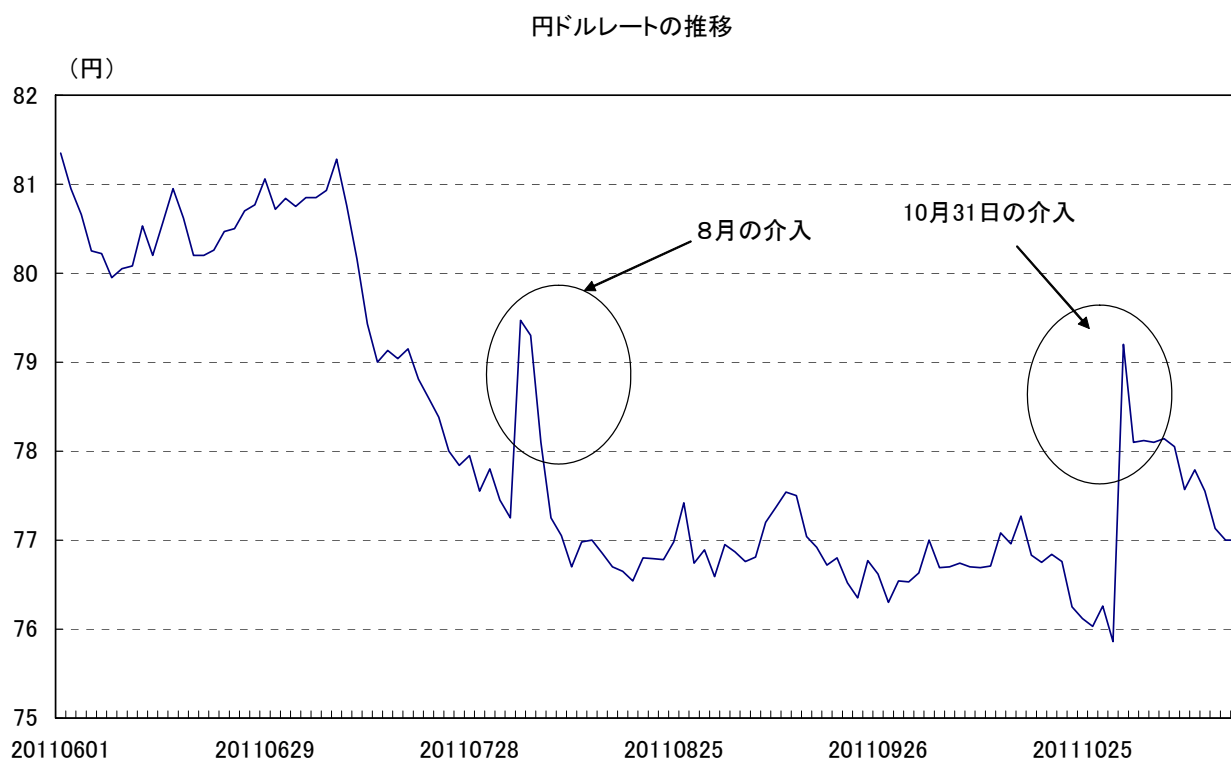
2. 介入効果が薄れ始める

その円ドルレートだがここに来て再びジワジワ円高が進んでいる。15日には東京市場で76円台をつけている。10月31日の介入前の水準は75円台前半だった。介入により一旦は79円台となったが、介入から2週間が経ち市場参加者の間でさらなる介入への警戒感が弱まっているほか、欧州の不安がくすぶり、円が買われやすい地合いが続いている。

今後についても欧州では政治リスク、格下げリスク、実体経済の下ぶれリスク(10-12月のユーロ圏は実質GDPが前期比マイナスに転じる可能性が高くリセッションが強く意識されやすい)などなどユーロ安材料には事欠かない。

また米国では財政赤字削減をめぐる民主、共和両党間の協議が23日に期限を迎える。決裂すれば米議会の政治的指導力に疑問符が付き、格下げのリスクが浮上しかねない。

ユーロ、ドルともに下落材料が山積しており、円高がいつ進展してもおかしくない状況となっている。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。